

## 第4学年 音楽科学習指導案

情報教育研究室

- 1 題材名 「ふしの重なりを感じ取ろう」  
教材名 「きゅう友」「歌のにじ」

### 2 本題材の考え方

#### (1) 児童の実態

本学級の児童は、これまでの学習において歌い方や楽器の奏法を工夫する活動に意欲的に取り組んできている。楽曲を聴くことを通して感じ取った旋律の特徴を、自分の表現に生かそうとする児童も多い。2学期の題材「いろいろな音のちがいを感じ取ろう」の学習では、様々な打楽器の音を聴き比べたり、奏法を工夫したりすることで、様々な音色のよさを楽しみながら活動することができていた。しかし、個人で見付けた音を持ち寄りグループで組み合わせる活動では、それぞれの音色の違いに着目して、音色の変化や重なり楽しさを味わいながら演奏することができていた児童は少なかった。習得した歌唱法や演奏の技能を使って歌ったり演奏したりする楽しさで満足してしまい、友だちと互いに聴き合いながらよりよい表現へと高めていこうとするまでには至っていない。

#### (2) 題材の価値

本題材は、声や音が重なり合う響きを感じ取って、聴いたり演奏したりすることができるようになることを目標としている。そのために、鑑賞教材「きゅう友」、歌唱教材「歌のにじ」の2曲を取り扱う。この二つの楽曲のよさは以下の通りである。

「きゅう友」は、曲想の異なる二つの旋律が重なって響き合う美しさを味わうと同時に、吹奏楽による管楽器や打楽器の響き、勇壮な行進曲の味わいなども合わせて楽しめる楽曲のよさがある。

「歌のにじ」は、ハ長調の旋律であり、音域やリズムにも無理がないので、歌いやすく音楽に親しみやすいというよさがある。また、3年生までのリコーダーの学習で親しんできた範囲の音域で、歌の主旋律にリコーダーによる副次的な旋律が加わった歌声と楽器によるアンサンブルを楽しめる教材でもある。さらに、リコーダーパートの一部を使って簡単な旋律づくりの活動を行うこともでき、活動に広がりをもたせることができる教材である。

#### (3) 指導にあたって

本題材の指導にあたっては、導入段階で、鑑賞教材「きゅう友」に出会わせる。ここでは、本題材で身に付けさせたい「旋律の重なり」に気付かせるとともに、その楽しさに関心をもたせることを主なねらいとしている。そのために、教科書の譜例を指でたどったり、旋律の重なりが感じられるところでカード操作をさせたりして、身体表現を通して曲想を感じ取らせながら、歯切れのよい「主なふし」と柔らかく流れるような「もうひとつのふし」の特徴のある二つの旋律を聴き分けることができるようにしていきたい。また、映像資料などを活用しながら、行進曲であることや吹奏楽による演奏であるといった楽曲の特徴についてもとらえさせるようにしていきたい。

展開段階では、歌唱教材「歌のにじ」に出会わせる。ここでは、歌とリコーダーの重なり合いを感じて柔らかな響きのある声で歌ったり、美しい音色で演奏したりすることができるようにすることを主なねらいとしている。そのために、指導用CDを聴いたり曲に合わせて歌ったりしながら曲全体の特徴をつかむことができるようにするとともに、副次的な旋律の階名唱に取り組みせるなどしてリコーダーで演奏できるようにしていく。そして、少人数に分かれて練習したり全体で合わせて練習したりするとともに、互いに聴き合いよさを感じ得る評価活動も取り入れていく。これらのことで、楽曲のよさを十分に味わいながら歌とリコーダーの技能を高めていけるよ

うにしていきたい。

終末段階では、「歌のにじ」の副次的な旋律をつくって表現する活動を行う。ここでは、拍の流れやフレーズ、音の重なりなどを感じ取って旋律をつくり、それを生かした表現活動ができるようにすることを主なねらいとしている。そのために、教科書を手立てとして副次的な旋律を考えさせるとともに、コンピュータを使ってつくった旋律を入力し、友だちと聴き合いながら自分の課題に合った旋律を選ぶことができるようにしていく。このことで、自分の考えた旋律をつくってすぐに聴いて確かめたり、簡単につくりかえたりすることができるICTの特長を生かしながら、より自分の思いに合った旋律を見付け出し、表現活動に生かしていけるようにしていきたい。

### 3 題材の目標

- 声や音が重なり合う響きを感じ取って、聴いたり演奏したりすることができる。
- 旋律の重なりによって生まれる音の広がりを感じ取って、表現の仕方を工夫することができる。

### 4 育てたい「情報活用の実践力」

- 教科書を活用しながら与えられた様々な情報（音）を基に、新しい考え（旋律）をつくり出すことができる。【創造】
- 課題や自分の思いに合った情報（重なり合う旋律）を見付け出すことができる。【判断】

### 5 本題材におけるICT活用の工夫

本学級の児童は、これまで、学校裁量の時間にコンピュータに親しむことをねらいとして、お絵かきソフトを使う経験をしている。また、自宅にコンピュータがある児童は70%を超えており、インターネットに接続している環境にある児童も全体の50%を超えている。そのため、検索サイトを用いてカテゴリーをたどったり、キーワードを入力してウェブサイトを探したりする経験をしている児童も40%いる。しかし、入手したたくさんの情報の中から、自分に必要な情報を選択するといった経験はまだ不足しており、今後の活動に取り入れていくべき課題と言える。また、キーボードを使って入力ができる児童が約30%いるものの、まだ経験が十分でないため、入力速度が遅く、情報を加工したり編集したりしながら自分の作品をつくる活動に、コンピュータを活用することはできていない。このような実態であるから、児童が、学習活動におけるコンピュータの有用性を感じているとは言い難い。

本題材では、終末段階の旋律をつくる活動においてコンピュータを活用していく。その際、作曲用ソフトを活用する。このソフトは、画面上の鍵盤にマウスポインタを合わせてクリックするだけで簡単に旋律を入力することができ、キーボード入力が苦手な児童にとっても容易に操作できるといったよさがある。また、本題材においてICTを使うことのよさとしては、以下のようなことが挙げられる。

- ・教科書を参考にしながら、課題に応じて多様な音の組み合わせをつくり出すことが可能になる。
- ・選ぶ音を変えながら自分の考えに合ったものにつくり変えることができる。
- ・つくった旋律をすぐに再生し聴くことができる。
- ・客観的に自分のつくった旋律を聴くことができる。
- ・拍がずれてしまうことがないので、正確に聴き取れる。

このように、教師が、ICTのもつよさを十分に生かして学習指導を行い、学習効果を高めていくと同時に、児童自身がICTのよさを実感できるようにしていきたい。このことが、児童の主体的に情報を活用しようとする態度と「情報活用の実践力」を育てていくことにつながると考える。

6 題材計画（5時間）※○数字は配時

| 主な学習活動   | 教師の支援<br>(下線部分は情報教育にかかわる支援)  |
|--|--|
| <p>1 鑑賞教材「きゅう友」を聴き、楽曲の特徴などについて話し合いながら、本題材で学習する内容について確かめる。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p>(1) 「きゅう友」を鑑賞して、感じたことを発表し合う。</p> <p>(2) 行進曲を鑑賞して、その特徴について話し合ったり、身体表現で表したりする。</p> <p>(3) 吹奏楽の演奏場面の映像を視聴して、楽器の特徴などについて話し合ったり身体表現で表したりする。</p> <p>(4) 本題材で学習する内容について確認する。</p> | <p>○ 行進曲の特徴をとらえさせるために、「星条旗よ永遠なれ」「ラデツキー行進曲」といった有名な行進曲の一部を鑑賞させるとともに、足踏みをしたり行進をしたりする身体表現を取り入れる。</p> <p>○ 吹奏楽の楽器や音色の特徴をとらえさせるために、映像資料をもちいたり、実際に金管バンドクラブに所属している児童に演奏させたりする。</p> <p>○ 音の重なりを視覚的に感じ取らせるために、色の異なる2種類のカードを持たせ、主旋律、副次的な旋律のそれぞれが聞こえたときに掲げさせるようにする。</p> <p>○ 曲全体の特徴をとらえさせるために、感じたことを発表し合う中で、曲の構成や曲の山、副次的な旋律について全体で確認していくようにする。</p> |
| <p>2 歌唱教材「歌のにじ」を歌ったり、リコーダーで演奏したりする。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p>(1) 範唱を聴いて、感じたことを発表し合う。</p> <p>(2) 主旋律を階名唱したり曲想を感じ取って歌詞唱したりする。</p> <p>(3) 副次的な旋律をリコーダーで演奏する。</p> <p>(4) 歌とリコーダーのグループに分かれて合奏する。</p>  | <p>○ リコーダーで正確に演奏ができるようになるために、副次的な旋律の階名唱をさせたり、休符に気を付けるように譜面に印を付けさせたりする。</p>   |
| <p>3 副次的な旋律の最後の4小節のふしをつくり、主旋律と組み合わせて歌とリコーダーで合奏をする。</p> <p style="text-align: right;">③</p> <p>(1) コンピュータを使って副次的な旋律の最後の4小節を考える。</p> <p>(2) できた旋律を友だちのつくった旋律と合わせて演奏する。</p> <p>(3) グループごとに、歌と副次的な旋律やつくった旋律を組み合わせて演奏をまとめる。</p>   | <p>○ <u>拍の流れやフレーズを考えながら多様な音の組み合わせをつくり出すことができるように、コンピュータを活用させる。</u></p> <p>○ <u>つくった旋律を再生用デッキで流しながら音の重なりを確かめることができるようにする。</u></p> <p>○ 歌とリコーダーを交代しながら、少人数で主旋律と副次的な旋律を重ねて表現する楽しさを味わえるようにする。</p>  |

## 7 本 時 (4 / 5)

### 8 本時目標

- 主旋律と副次的な旋律やつくった旋律を組み合わせて、響きの美しい表現を工夫することができる。
- 教科書にある情報をもとに課題に合った旋律をつくり出したり、自分の思いに合った旋律につくり変えたりすることができる。【創造】【判断】

### 9 本時授業仮説

音楽の旋律づくりの学習において、次のようなICTの特長を生かした活用を行えば、児童の「情報活用の実践力」を育てることができるであろう。

- マウスをクリックするだけで、旋律をつくったり繰り返し聴いたりすることができる作曲用ソフトの活用

編集・保管における活用

### 10 本時指導の考え方

本時の指導に当たっては、「歌のにじ」を、主旋律との重なりを考えながら、「明るい曲」「はずむような曲」「なめらかな曲」等自分のイメージに合った副次的な旋律の最後の4小節をつくることを主なねらいとしている。そのために、以下のように活動を構成していく。

導入段階では、重なり合う音の響きの美しさに対する関心を高めるとともに、自分たちも重なり合う旋律をつくっていききたいという意欲をもつことができるようにすることをねらう。そのために、まず、前時の学習でがんばったことやできるようになったことを発表させ、柔らかな響きのある声で歌ったり、美しい音色で演奏したりすることができるようになったことを想起させて、「歌のにじ」の歌とリコーダーの合奏に取り組ませる。次に、教師が用意した二つの副次的な旋律を、主旋律との重なり方に着目させて聴き比べさせ、最後の4小節の旋律を変えるだけで曲の感じが違ってくことに気付かせる。これらのことで、つくって表現する活動に関心をもたせ、本時学習のめあてを設定していきたい。

展開段階では、主旋律との音の重なりを考えながら、副次的な旋律の最後の4小節の旋律をつくることをねらう。そのために、まず、教科書を手立てとして拍を合わせるような学習プリントを用意し、考えた旋律を書き込ませていった。次に、コンピュータを使った旋律づくりに取り組ませる。その際、個人の活動の時間や場をしっかりと確保できるように、一人に1台のコンピュータを用意しておく。また、あらかじめ主旋律を入力したものに合わせて旋律をつくらせるようにする。これらのことで、選ぶ音を変えながら自分の考えに合ったものにつくり変えたり、その場で再生してつくった旋律を確かめたりしながら、自分のイメージに合うような旋律を考えることができるようにしていきたい。

終末段階では、自分たちのグループの副次的な旋律を決めることができることねらう。そのために、まず、つくった旋律をグループで持ち寄り、グループの合奏に使う旋律を決める話し合いの場を設定する。このとき、互いに音を聴き合えるような形態の工夫を行い、アドバイスし合いながら必要に応じてつくり変えることができるようにしておく。次に、つくった旋律をリコーダーで表現する活動に取り組ませる。その際、友だちと合わせて演奏させることで、それぞれの表現の違いやよさを十分に味わえるようにしていく。さらに、本時活動の振り返りを書き、発表する場を設定する。このとき、自分のがんばりや友だちのよさ、楽しかったことを中心にまとめさせ発表させる。これらのことから、児童が本時活動のよさを実感し、次時で合奏を行うことに意欲をもつことができるようにしていきたい。

11 本時展開

| 主な学習活動と内容  | 教師の支援<br>(下線部分は情報教育にかかわる支援)   | 目指す児童像  |
|--|---|---|
| <p>1 前時学習を想起し、「歌のにじ」を歌とリコーダーで合奏するとともに、教師の用意した二つの旋律を聴いて本時学習のめあてを設定する。</p> <p>(1) 前時学習で学んだことを想起しながら「歌のにじ」を合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 柔らかな響きのある声で歌ったり、美しい音色で演奏したりすること</li> </ul> <p>(2) 教師の用意した二つの旋律を聴いて感じたことを出し合い、本時学習のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音の重なり楽しさを実感したり、旋律づくりの活動に関心をもったりすること</li> </ul> <p>2 コンピュータを使って副次的な旋律をつくる。</p> <p>(1) 教科書をもとに、副次的な旋律の最後の4小節考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の楽譜を参考に旋律を考えること</li> </ul> <p>(2) コンピュータを使って副次的な旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ めあてを意識しながら旋律をつくること</li> </ul> <p>3 グループでつくった旋律を聴き合い、必要に応じて修正を加えながら旋律づくりのまとめを行う。</p> <p>(1) グループの合奏に使う旋律を決める話し合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旋律の重なり楽しさを味わいながら聴き、友だちの表現のよさを感じ取ること</li> </ul> <p>(2) 活動を振り返り、学習カードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のがんばりや友だちのよさ、楽しかったことをまとめること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時学習でがんばったことやできるようになったことを発表させ、歌や演奏に生かしていけるようにする。</li> <li>○ 本時学習のめあてをつかませるために、音の重なり方の違いがはっきりしている二つの旋律を用意しておく。</li> <li>○ 音楽を鑑賞して感じたことを表す際の言葉を一覧としてまとめたものを提示し、「自分の思い」を具体的な言葉でとらえさせる。</li> <li>○ 教科書に合わせて拍を正しく取ることができるように、児童が選択する部分だけを空欄にした学習プリントを用意しておく。</li> <li>○ <u>個人の活動の時間や場をしっかりと確保できるように、一人に1台のコンピュータを用意しておく。</u></li> <li>○ <u>コンピュータの操作が円滑に行なえるように、休み時間などを利用して基本的な操作の仕方について指導しておく。</u></li> <li>○ <u>それぞれがつくった旋律を移動せずに聴き合えるように、グループの全員が向かい合った形態をつくっておく。</u></li> <li>○ つくった旋律のよさや重なり合う音の美しさを実感できるように、実際にリコーダーで演奏する場を設定する。</li> <li>○ 本時活動のよさを実感できるように、よさを中心にまとめている児童に発表させ賞賛していくようにする。</li> </ul> | <p>※コンピュータを使って、選ぶ音を変えながら自分の考えに合ったものにつくり変えたりその場で再生して、つくったふしを確かめたりしながら副次的な旋律の最後の4小節の旋律をつくることできる。<br/>(行動分析)</p> <p>※旋律の重なりによって生まれる音の広がりを感じ取ることができる。<br/>(ノート分析)</p> |